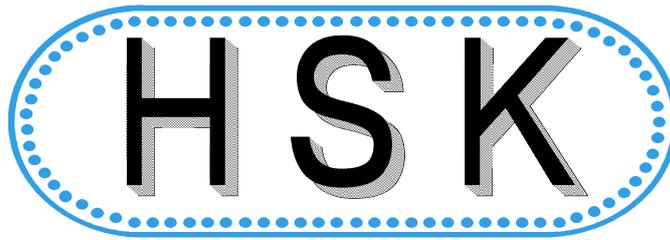


HSK毎月十回(一・三・五・八・十・十三・十五・十八・二十・二十五日)発行  
一九九四年八月四日 第三種郵便認可



# 季刊わたぼうし

NO. 73

07春

特集・みんなの広場

## 今回の目次

### ※特集・みんなの広場

- ・シリーズ  
「ぜんちゃんの自立生活体験」レポート  
桶屋 善一 2
- ・福祉の理想と現実を考える 山本 光男 4
- ・福祉日記4  
「もっと地域にグループホームを」 7
- ・「能登半島地震」を体験して  
桶屋 善一 8

### ※読者企画・食べ物談話

- ・故川島四郎先生とサトウサンペイの  
「食べ物さん、ありがとう」(1)  
秋本 信子 9

### ※マイ・ブックスルーム

- ・いのちの授業 9

### ※会費納入願いについて 10

市役所が動いた

投書欄の価値

宮田 比呂雪



この機関紙は障害のある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

# 特集・みんなの広場

お断り：2月20日に行いました「武元七尾市長との懇談会」を掲載する予定でしたが、「能登半島地震」の影響で原稿の確認が遅れていますので、次号の掲載とさせていただきます。

## シリーズ「ぜんちゃんの自立生活体験」レポート

編集責任者・桶屋 善一

今回より、昨年10月13日～23日の11日間、自分自身が「施設を出て地域生活を行うこと」を目的に行いました「自立生活支援センター富山」における自立生活体験レポートを数回に分けて掲載させていただきます。

なお、この原稿は「自立生活支援センター富山」の機関紙「遊ぼうよ」より転載させていただきます。

### レポート1

今回の自立生活体験は以前の体験と違い、より地域生活に向けてへの実践的なものだった。体験に入る前に体験の日程・日中活動の計画・体験中の予算の管理など実践的なものだったが、私は体験に乗る気がないのか、のらりくらりとした日々を過ごしていた。体験の日が近づいてくるし、計画表を出さなければいけないと思い、何とか思いつきで計画表と予算書を作成した。

しかし、体験の前日になってもやる気が起きてこない。「やっぱり、施設生活が良い」という思いが強い。センターに「イベントだけに参加したい」とメールをしたら「それならホテルに泊まれば」という返事だった。この返事が考えを変え、「ようし、体験をやってみよう。」という気持ちを起こさせた。

前日の夕方に体験の計画表がセンターから送られてきて、「土日の夜の介助者が決まっていないので自分で探すように」と書かれてあり、

再び不安がわいてきた。でも、「何とかなるさ」と思いながら体験の準備をしていた。

当日になっても、何故か気が進まないのかパソコンばかりに向かっていた。何故だ、体験当日なのに電車の時刻も把握していなく、移送サービスの人が迎えに来て時間に気づいた。何という有様だろう。

昼食が済んで、移送サービスの車に乗り「今までならきちんと電車の時刻を調べてあったのに、今回はどうしたの？」と強い口調で言われ、またショックを受けていた。駅で往復の切符を買い、帰りの電車を調べてから移送サービスの人は帰っていった。その後、電車に乗り込み、富山へ向かった。

富山駅に着くと今までの不安もなくなり、「自立生活支援センター富山」から携帯に電話がかかってきた時はうれしくて。こんなにも心配してくれているのだと思うと「ありがとう」の感謝の気持ちになった。



### レポート2

2日目は東海北陸車いす市民交流集会に参加するために、会場の「サンシップとやま」までバスで行くことになった。でも、「サンシップとやま」には一度も行ったことがなく、富山市役所前でバスを降りたが見つからず苦労していた。NHK富山放送局の前で道を歩く人に聞いたけれど、言葉が通じなくて困っていた。「これではだめだ」と思い、近くのホテルに入って聞いたら親切に地図を探していただき、それを見ながらやっとたどり着くことができた。

集会の初日は、自立支援法の講演会・シンポジウムが行われ、自立支援法によって自分たちの生活が脅かされていることの報告がされていた。中でも印象に残っているのは、講演を行った講師の方が語っていたが、自立生活センターにも2種類あるようだ。障害者当事者が運営する自立生活センター、障害者施設が運営する自立生活センターがあるということだった。

講師の方は、最初は施設が運営する自立生活センターで働いていたが、周囲から「あれは偽物の自立」と言われていたようです。それを乗り越えて本物を自分たちで作り上げていったということを話してくれた。

さて、シンポジウムの2日目のこと。夕方の介助者のAさんから、「昨日の介助で腰を痛めて来られない。」という電話がかかってきた。それを聞いて、私がAさんに不愉快な思いをさせてしまったのかと思って悩んだ。でも、約束を守らないのはおかしいと思った。それからが大あわての時間を過ごすことになった。もうシンポジウムなんかどうでも良くなり、早く介助者を見つけなければという思いだった。

周囲の方もいろいろ介助者を探してくれたのだが、見つからず困っていた。そこで、Aさんを紹介してくれたBさんに連絡したら、「約束を守らないのはおかしい。」と断ってきた本人に連絡を取り「約束は守るべき」と言って、Aさんに来てもらうことができた。やっと、ここで安心と思っていたら、午後から大変な大便の失敗をしてしまった。

午後からシンポジウムを終えて、Aさんが介助に来てくれて一安心。さあ、昼食にしようということでAさんの車で近くのショッピングセンターに入り、昼食をした。

昼食を終えて買い物をして、家に着いたらお腹がやばい。ラーメンが悪かったのか出てしまった。Aさんの車が汚れていないかが心配。でも、Aさんは何も言わずにシャワーを浴びさせてくれるだけでなく、入浴までさせてくれました。そのうえ、大便の着いた汚れ物を素手で洗ってくれている。普通なら逃げ出すところだが、こんなにも親身な介助に感謝している。

～次号に続く～

### 自立生活体験スケジュール表

10月	朝	午 前	午 後	夜	移動方法	
13	金		七尾～富山へ移動	夕食・就寝介助	電車・自家用車	
14	土	介助, 朝食	市民集会会場へ移動	東海北陸車いす市民集会	市民集会で夕食・就寝介助	電動車いす・バス
15	日	介助, 朝食	東海北陸車いす市民集会	宿泊の家へ移動・入浴	夕食・就寝介助	バス・自家用車
16	月	介助, 朝食	富山生きる場センター	富山生きる場センター	夕食・就寝介助	電動車いす・バス
17	火	介助, 朝食	富山市役所を訪問	不動産屋さんを訪問	夕食・入浴・就寝介助	電動車いす・バス
18	水	介助, 朝食	ディサービスを訪問	ピア・カウンセリング	夕食・就寝介助	電動車いす
19	木	介助, 朝食	ピア・カウンセリング	ポートルム乗車	夕食・入浴・就寝介助	電動車いす
20	金	介助, 朝食	ピア・カウンセリング	大雨の中、宿泊の家へ	夕食・就寝介助	電動車いす・バス
21	土	介助, 朝食	電動車椅子サッカー全国大会に参加		夕食・入浴・就寝介助	電動車いす・バス
22	日	介助, 朝食	電動車椅子サッカー全国大会に参加		夕食・就寝介助	電動車いす・バス
23	月	介助, 朝食	ピア・カウンセリング	富山～七尾へ帰る		電動車いす・電車

## 福祉の理想と現実を考える

穴水町・山本 光男

### はじめに

「H S K季刊わたぼうし」表紙の宮田さんの川柳は流石だ。支持率が落ちてでも不信任案が可決され、総辞職でもしない限り首相であることに変わりはない。

しかし、最近の世論調査の結果では安倍内閣の支持率と不支持率が逆転しているが、首相の指導力不足が大きな要因と言える。安倍首相はどちらかと言えばタカ派のイメージが強く、対米従属の印象に加え柳沢厚生労働相の「女性は産む機械云々」発言、久間防衛相の米国のイラク開戦批判など、ある意味では「死に体内閣」の様相すら呈している。「男女共同社会参画時代」を思えば柳沢厚生労働相の発言は、われわれ男性でも情けなくなる時代錯誤も甚だしい発言だろう。潔く辞任すべきで、何時までも大臣の座に恋々としているのはみっともない。それを庇う安倍首相や自民党幹部、公明党も如何なものか疑問である。

久間防衛相の対米批判は入閣前の思いだそうだが、イラク開戦の大義とされた「大量破壊兵器や核兵器」は何処にもなかった事実を照らし合わせれば、正しい発言である。沖縄の基地移転問題も、米国のせっかちな口出しに対する発言である。沖縄県民の視点から基地問題を見直す必要がある。

### 見出し文字と三点リーダー・・・

「H S K季刊わたぼうし」について前にも述べたと思うが、見出し文字のゴシック体は太すぎて、何という字か分かりにくいので、もう少し細めのゴシック体を使っては如何か。また疑問符の？に三点リーダー…をつければ、一字分空ける必要がない。

例示・?…のようにしては如何だろうか。



### 私はこう生きたいII

富山の自立支援センターの方々の体験に基づく内容で、僕などちょっと真似のできないことだ。大変苦勞されているのに感銘させられる。医療のことやグループホームのことなど、難しい問題に取り組む前向きな姿勢に敬意を表したい。僕は地域で生活するのは難しく、できれば青山彩光苑のセレーナへ入居し、趣味の絵画を描くことを中心にした生活が夢だけれど、月に12万円程の生活費が必要なので困難である。

それに去年は、7月4日から8月9日まで腸閉塞で入院、寝たきりの状態で、入院中に外して置いた入れ歯が合わなくなり、10月5日から11月8日まで一週間ごとに恵寿歯科医院へ通院した。奥能登も過疎化と車社会でバスの乗客が激減して交通も不便である。バス・のと鉄道を乗り継ぎ七尾駅へ、駅前には整備工事中で歩道の舗装が後回しであり、駅前派出所のお巡りさんの介助でどうにか「ミナ・クル」まで行った。一階のトイレは分かりにくくドアも「H S K季刊わたぼうし」に書いてあったように、重度障害者の手では開けるのは困難だ。僕は自分で開けられたが、重度障害者には不便であろう。

しかし、三階のトイレは使い易かったと思う。三階から渡り廊下を渡り「パトリア」で買い物をしたが、道路を跨ぎビルとビルを行き来できる廊下はちょっと珍しい。駅前から近道を辿り、恵寿歯科まで車いすを漕いで行くのも体力の勝負である。

穴水駅発～能登空港経由のバスは、午後5時50分しかなく大変不便だ。入れ歯も11月8日にでき上がり、どうやら馴染んできたと喜んでい

たのに、2月1日頃の昼食に南瓜の煮たのを食べていたら口の中に硬い異物が…、口から出して見たら何と上の入れ歯4本が欠けていて吃驚した。日脚が伸びたと言っても寒い時期だから、「入れ歯の治療は4月から5月にしなさい」との看護師のアドバイスに従うことにした。



### いざなぎ景気超えと格差社会

NHKの午後7時のニュースを見ていたら、サラリーマン川柳の入賞作品が発表された。翌日の朝刊にも載っていたので、その中から一句。  
妻・子・俺 格差社会は 我が家にも 作者名は不明。

よく「いざなぎ景気超え」と新聞でも見かけるが、大都市と地方、大企業と中小企業の格差は歴然としている。経団連会長が労働者の賃上げは、それぞれの会社の業績などを考慮する必要があると発言していた。政府税制審議会による減税も、国際競争力をつけるためとの謳い文句で、大企業優先の減税策を打ち出したが、個人の税金は増税になるようだ。労働者がいてこそ会社が成り立つのだから、当然のことながら賃上げすべきだ。そうすれば消費が伸びて商品の売れ行きも伸び、本当に「いざなぎ景気超え」が実感できるはずである。

それに景気は何時までも好調に持続するものでなく、晴れたり曇ったり、集中豪雨や台風も吹く天気と同じで、条件次第でいつ不況風が吹くか分からない。僕たちの障害者基礎年金もよく見れば、僅かずつだが目減りしていることに気付くのだ。

措置費制度の時は安心だったけれど、支援費制度・障害者自立支援法と制度が変わるたびに、

自己負担金が重くのしかかっている。減額措置が講じられても、国民保険料を払わねばならないから、結局は社会的弱者に厳しい負担増しである。

高齢者や障害者ら社会的弱者に、自己負担が強いられるのは官僚たちの税金の無駄遣いと官製談合、天下りによる再就職先確保が主な原因だ。税金の無駄遣いによる国の膨大な財政赤字は、「いざなぎ景気超え」による税金の増収にも係わらず、国民一人当たり“400万円”以上の借金をしている勘定とのことだ。僕は1銭の借金もしていないのに、「ああ…それなのにそれなのにね…」と言いたくなる。官僚のリストラをやらねば、税金を納めている国民は納得しないだろう。

国会議員も多いように思うが、国費から政党助成費を交付されているのに、家賃無料の議員宿舎へ事務所を置き、事務費や何かと不透明な資金報告書を提出しているのは疑問だ。政治資金規正法を直ちに改正して、政治資金の用途を透明化するべきだ。地方自治体にも、国に準じた体質があると言われる。地方の財政事情改善のためには、思い切ったリストラが避けて通れないのが現実である。

### むすび

何時も思うことだが、誰もが安心して生活できる政治を実現するにはどうしたら良いかと言うことだ。アフリカなどでは多くの飢餓難民が、「食べ物も寝る所もなく困っている…」とテレビで報道していた。その点、僕たちは賛辞さえしなければ食べ物も寝る所もある。朝に夕べに、こうして生かさせていただいていることを感謝し、神へ祈りを捧げている。「三度の食事を美味しくいただくことが幸せなこと」でなくて何であろう。

そして「全ての生命が共生共存できる」、そ

んな世界が拓かれるように祈らずにはおれない。  
「人類を始め全ての生命は生きているのではなく、生かさせていただいている」のであることを忘れてはなるまい。

## 附文

誰も好きで障害者に生まれたのではないし、貧乏な家に生まれたいと思う人はいない。しかし、母の胎内に生を享けた時に、既に運命が決まっていたのである。母の胎内にいる間は何も分からないで、母の臍（へそ）の緒から空気と栄養をもらい10ヶ月得て、この世に弧々の産声を上げるのだ。その時点では、目も見えなくお腹が空けば本能的に母乳を求め泣くのみだ。成長するに従い自我が芽生えて、自分の身体や家庭の貧富の差に気付くようになる。われわれは健常者に生まれたいとか、裕福な家庭に生まれたくても選ぶことはできないのである。それは遺伝子の働きと、目には見えない絶対の力が働いているからだ。

それを「大宇宙創造の主」とも、「神仏の為せる業」であるとも思っている。この世の全ての物質は、プラスとマイナスの原子から成り立っているとされるが、日の当たる所には必ず陰ができると同じである。生まれながらの健常者や障害者がいるのも、裕福な家庭に生まれるか、貧しい家庭に生まれるかは神のみ知ることである。障害者に生まれたからと言って親を恨んだり、健常者をうらやましがっても致し方ないことなのだ。これ皆、神の思し召しと受け止めて努力して与えられた運命のもとに、あるがままに生きることで自分自身を磨くことができよう。珠玉も如何に優れた才能を与えられていても、磨かねば光らないのだ。

親殺しや子殺し、虐待といじめによる自殺など悲惨な事件や、大企業の不正報道が多過ぎる。世の中は一体どうなっているのか？…、もっと

明るい話題が多くなるよう願って、拙文を措くことにする。

## 編集者の一言

山本さんは「青山彩光苑穴水ライフサポートセンター」で生活されております。地元新聞の投稿欄に投稿されたり、朱鷺の保護にも力を入れられ、羽咋市に住んでおられる村本義男さんの活動にも協力をされておられる方です。

この文章を読んでいて、とても考えさせられました。私たちは何か理由があって障害者や健常者に生まれてくるというのは、その通りだと思います。

私たちがこの世に生まれてくるとき男と女、地域、親、時代を選ぶことができません。この自分に与えられた環境をどう生きていくかが大切だと思いました。



## 福祉日記 4

### もっと地域にグループホームを…

悪徳福祉評論家

国が自立支援法を改正してから、早や一年が経とうとしている。果たして国が言っている『自立』とはいったいなんだろうか？…僕からしてみれば国が言っている『自立支援法』というのは単なる名ばかりで、真の狙いは僕たち障害者またはお年よりたちに国が今までのような金銭的の援助ができなくなったからだ。

だから、国は真のことを言えないから『自立』という言葉に託けて、僕ら障害者の意見も聞かずに勝手に行っているのだ。「自立というものはなんなのか？…」を国はもっと考えるべきだと思う。これじゃ、まるで『自立支援法』でなく、『自立切り捨て法』だ。まだ障害者の中で動けて自分のことを考えたり、できたりする人がいるけれど、動けなくまた自分のことも俚ならなくて、自分のことさえも考えることもできない重度の障害者や寝たきりのお年よりはどうするの？

ここで一つの提案として、障害者一人一人の障害度に合わせて支援を行ってゆくっていうのはどうだろうか？…今まで障害者は障害度に関わらずみられてきたが、これからは車いすを使用していたとしてもA～Dにランクをつけて介護提供をするだけではなく、すべてにおいて（入浴、トイレ、食事、日常的なこと）が自分ででき、また自分の考えをもって主張できる障害者は地域で暮らせる支援を行った方がどれだけの有意義になるのではないだろうか？…あと、2年あまりで施設という業務がなくなると

聞くが、それならいっそのこと、もっと地域の中にグループホームを作って、地域の中で生活しながら力をつけていった方が障害者にとって、自立への第一歩へとつながるのではないだろうか？…

そうすれば、僕ら障害者はグループホームをきっかけにどんどん地域に出て一人で生活できる自信がつくと思う。ついこの前まではグループホーム＝知的障害者だったが、これからは知的と肢体不自由の障害者と一緒に生活できるグループホームを多く作り、またグループホームでのヘルパー（主に家事をしてくれる人）の数も一世帯あたり2人として、あと、福祉を学んでいる学生たちの授業の一環として、一ヶ月からもしくは二ヶ月間ホームで障害者と共に生活をしてみてはどうだろうか？…学生たちには良き経験＝勉強にもなるし、また障害者たちにもなんらかの刺激＝経験もなると思う。生活面では全部が全部ヘルパーに頼るのではなく、知的障害にできないところは肢体不自由の障害者が手助けし、肢体不自由の障害者ができないところは知的障害者が手助けをすれば、共に生活できるのではないだろうか？

あと、その地域の人の理解＝手助けがあれば、ホーム的に成り立ってゆけるのではないだろうか？…これからの時代、障害者たちが共に生活できるグループホームを広め、費用がかかる施設などなくせばいいと私は思う。



「HSK季刊わたぼうし」のホームページ  
<http://www3.nsknet.or.jp/~petero/>



## 能登半島地震を体験して

編集責任者・桶屋 善一

3月25日(日)の「能登半島地震」で被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。1日も早く復興され以前の生活に戻られるようお祈り申し上げます。

さて、私も当日は平常通り七尾市内の教会に着いてトイレをしようと思ったとき、大きな揺れが来ました。今まで体験をしたことのない揺れでした。本当に怖くて大声を出しました。揺れが収まってから、教会の人が「大丈夫？」と声をかけてくれた時はホットでした。本当に怖い思いをしました。

礼拝を終わって七尾市内を電動車いすで歩いてみましたが、そんなに被害はなかったのか、数人の方々が家の後始末を行っている程度でした。七尾駅前にあるスーパーへ行くと店内の後始末のため閉店していたり、友人のお見舞いにK病院へ行く途中の道路が陥没していて、通ることができず回り道をしてK病院に行きました。病院の中は思っていたより深刻でなかったが、怪我をされた方が何人か運ばれていました。

友人の方が入院されている5階までエレベーターで上がったのは良かったが、帰りに降りようと思ったら、地震のためエレベーターの使用禁止になってしまいました。バスで帰ろうと思っていたのに。でも、仕方がないと思いながらエレベーターが動くのを待っていたら、看護師さんに「エレベーターが動いたから降りよう。」と言われ1階まで降ろしていただきました。それからバス時間まで時間があつたので、思い切って電動車いすで青山彩光苑まで帰ってきました。

無事に青山彩光苑へ着くとやはり地震の被害が出ていました。人的被害はなかったがボイラ

一の故障でお湯が出なかったり、建物のあちらこちらにヒビ割れができていました。入浴もできない状態でした。

夕方テレビで報道を見ると輪島市や旧門前町、志賀町で大変な被害が出ていることが報道され、このような被害の報道のなかに、心温まる報道をいくつか見ました。「阪神大震災」の時に小学生だった青年が今回地震があつた地域のお宅に疎開してお世話になったので、「能登半島地震」の報道を聞いてボランティアにかけつけたという。

やはり、「阪神大震災」のお返しということで、温かいラーメンを被災者に食べてもらおうと関西からかけつけたというラーメン屋さん。被災者に入浴をしてもらおうと、入浴を無料にして開放しているホテルの経営者など。

このような報道を見ていると胸が熱くなり涙が出てきます。本当の幸福とは人の優しい声かけだったり、手助けではないだろうか？……地震の被害は大きかったが、人と人の心の絆は深まったのではないだろうか？……

この裏には人をだまして、弱みにつけ込んで金を取ろうとする悪徳業者も後を絶たない。他人が困っているときに、自分の欲だけを考える自己中心的な人間には腹立たしく思います。自分が震災に遭っていたらどう思うのだろう。

最後にこの地震は、ものが豊かになり平和ボケしている我々に本当に大切なもの、本当の幸福とは何か？……を教えているように思えてならない。



## = 読者企画・食べ物談話 =

故川島四郎先生とサトウサンペイの

「食べ物さん、ありがとう」(1)

管理栄養士・秋本 信子

「食べ物さん、ありがとう」という本は1986年に出版され、続編・続々編の3冊があります。当時91歳の川島四郎先生と生徒役のサトウサンペイさんの対談をユーモラスな漫画まじりで小さな文庫にした、とても分かりやすい「日本人の栄養学講座」で、健康づくりの知恵集成ともいわれています。

この、「日本人の・・・」というところが大切なんです。バランスの良い食事なんて、本来無いのをご存知ですか？一日30品目の食材を食べなければならないなんて、そんな無理ですよ。毎日・毎食、肉・魚・卵・牛乳なんて動物性たんぱく質をどれか1つでも食べ続けていたら、それこそ病気になっちゃいますよ。私は病院で働いていたのだけど、今思うと、精進料理のような、ご飯と野菜を中心にしたメニューのときがあっても良かったなあと反省しています。あるある大辞典の捏造ではないけれど、1つの食品にこだわり続けるもの問題が多いですね。

おいしい、栄養士がそんなこと言っているのか、と怒られそうですが、たしかな裏づけが一つだけあるのです。それは、「文明が進歩しても、人間の内臓は原始時代からほとんど変化していない」という事実なんです。

次回から、故川島四郎先生が自ら実践していた腹6分目の健康法と長寿の秘訣を学んできたいと思います。

## マイ・ブックスルーム

### いのちの授業

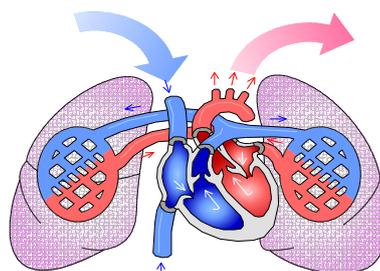
日野原 重明 著

発行所:ユーリーグ株式会社 定価1,500円+税

聖路加国際病院理事長・同名誉院長、日野原先生(95)が全国の小学校で「いのちの授業」を行っています。

10歳の子供たちに「いのちとは何ですか?」という問いかけから始まり、心臓のこと、どうして人を殴ってはいけないのか? いのちとは、自分の使える時間と語りかけている。

文字も大きく、フリガナもついており、子供たちにも読みやすいように工夫されています。



### 協力会費納入のお願いについて

平素はH S K季刊わたぼうし」をご愛読いただきありがとうございます。

「H S K季刊わたぼうし」は1985年（昭和60年）1月に羽咋わたぼうし会の有志で施設利用者・在宅障害者・健常者の交流を目的に創刊しました。

創刊以来、羽咋市からの補助、読者の皆様からの会費をいただきながら23年間、発行を続けております。自立支援法によって福祉サービス利用者の皆様から会費をいただくことは心苦しく思います。

しかし、今後も能登地方の障害者福祉活動として「H S K季刊わたぼうし」を存続させていきたいと思っておりますので、今回、郵便振替用紙を同封させていただきます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、これは強制ではなく、主旨をご理解の上ご協力いただきますようお願い申し上げます。

また、既に振り込まれた方にも、送付作業の関係上、振替用紙が同封されていますのでご理解いただきますようお願いいたします。

2007年 4月

「H S K季刊わたぼうし」事務局

### 編集後記

「能登半島地震」の被害に見舞われた方々に心からお見舞い申し上げます。能登に地震なんか来ないと、人ごとのように思っていた私でしたが、本当に怖い体験をしました。

また、復旧に携わった方々には頭が下がる思いです。災害に遭われた方々が一日も早く元の生活に戻れるようお祈り申し上げます。(Z.O)

### 川柳裏表紙

#### 市役所が動いた 投書欄の価値

4年前、岩手県の柳人、佐々木七草さん発刊の川柳句集「祭り下駄」の中に“お役所をペンで動かす投書欄”という句を見つけた。どちらも同じ意味ですネ。役所の返事はいいが、なかなか行動に移さない重い腰を、新聞等の投書欄に載せてもらった。それを読んだ市役所が早速対策などに動き出した、というわけだ。投書欄とは我々庶民のためにある欄だ。時々目にする句意です。私にも経験がありますネ。先日の「能登半島地震」の庶民の声や意見、被災地からのうめき声が投書欄ににぎわす頃となりました。(比)

### 年間協力会員募集中

この機関紙は障害のある人、ない人がそれぞれの考えを出し合う中から、互いに理解を深め、共に生きる豊かな社会づくりを目的として、有志により発行しています。

つきましては、主旨に賛同して協力会員になっていただく方々を募集しています。

この会費は、在宅障害者宅や福祉関係等機関に送付していますので、機関紙一部の料金ではなく、主旨に賛同していただいている方々の年間協力会費として扱っています。

年間協力会費：2,000円

会費振込先：郵便振替口座

振込先名義：わたぼうし連絡会

00750-6-9791

送付：春、夏、秋、冬

### 編集及び連絡先

連絡先：zen@san9.net まで

定価二〇〇円